

デヴァナデラ司法大臣によるスピーチ（日本語骨子）

#### 【開会式におけるスピーチ】

汚職及びその一環としてのマネー・ローンダリングは、何十年も前から問題として指摘されているが、各国においてこれに適切に対処する法を整備するようになったのは、最近になってからである。マネー・ローンダリングやその他の形態による汚職が、更なる貧困や公共サービスの低下を招き、国の発展を阻害するものであることが認識されるようになった。公共部門における汚職、及び、民間部門における汚職のいずれも、社会に対して衝撃を与えるものである。

汚職がはびこる国においては、何がその原因となっているのであろうか。汚職対策を講じる際には、各国において、汚職の温床となっている人々の考え方・カルチャーに注意を払うべきである。人々は汚職を当たり前のことだと考えているのではないか。人々は汚職を許しているのではないか。汚職撲滅キャンペーンを展開する際には、このような各国に固有の事情をよく理解し、それらを反映したものとすることが必要である。ある国において有効な汚職対策が、他の国においても有効だとは限らない。

本セミナーのテーマである汚職犯罪収益の没収・回復に関して、フィリピンは、マルコス元大統領一族が汚職により得た資産について、それらが所在していたスイス及び米国から回復することに成功したものであり、両国政府の多大なる協力に感謝申し上げたい。本セミナーのような国際的な協議の場において、各国の実務家が、汚職犯罪収益の没収・回復という同じ目的に向けた各種方策について検討することはとても意義のあることである。強大な権力を持つ公的人物による汚職犯罪を摘発し、追い詰めていくための国際協力が、今後さらに促進されることを強く望んでいる。

マルコス一族による汚職資産の回復には、長い年月と労力を要した。直面している課題は大きいですが、私は、本セミナー参加者の皆さんが、力強くその課題を克服してくれるものと信じている。

#### 【閉会式におけるスピーチ】

本セミナーの主催者に対し、セミナー開催中のご尽力について感謝申し上げたい。また、駐比日本大使、アジ研所長・次長、客員専門家及びフィリピン司法省スタッフらに対し、改めて感謝の意を表したい。

本セミナーの参加者にあつては、汚職犯罪収益の没収・回復に向けた各種方策を検討するという本セミナーの目標を大変熱心に追求されたことに敬意を表したい。採択された勧告を拝見したが、極めて実務的なものであることをうれしく思う。

汚職犯罪収益を追跡し、没収・回復することは困難な作業であるし、本セミナー参加者が他にも職務を負っていることも承知している。しかしながら、だからといって、汚職犯罪収益の没収・回復に向けた努力を後回しにしてはいけない。各参加者は、今後、互いに

協力し合い、それぞれの国、あるいは地域をまたにかけて、マネー・ローンダリング及び汚職の撲滅に向けた努力における「触媒」として活躍していただきたい。汚職やマネー・ローンダリングを撲滅しようとする者は、その存在が、権力を握る人物の公的・私的利益を脅かすものとなった場合には特に、様々な困難に直面することとなる。マネー・ローンダリングや汚職との戦いにおいては、集団で立ち向かうことが必要不可欠である。だからこそ、フィリピン司法省の職員を含めて、本セミナーの参加者全員が、マネー・ローンダリングや汚職との戦いの実務レベルにおける「触媒」となっていただきたいのである。

教訓を得る最善の方法は、経験を共有することである。例えば、フィリピンが実際にマルコス元大統領一族による汚職犯罪資産を回復するための戦いを通じて得たものについて、各参加者においてもよく検討していただきたい。資産回復には様々な困難を伴うのは事実だが、各参加者においては、是非、このような成功例における経験を共有していただきたい。